

『安全で安心な三重のまちづくりアクションプログラム・第2弾』 キックオフ大会の開催結果の概要

1. 日 時

令和2年9月14日（月）14：00～16：00

2. 場 所

三重県庁講堂

3. 参加者

約120名

4. 来 賓

【まちづくり推進会議委員（計7名）】

- ・南部 美智代氏（NPO 法人災害ボランティアネットワーク 鈴鹿 理事長）
- ・今村 潤二 氏（NHK 津放送局 副局長）
- ・吉良 勇藏 氏（一般財団法人三重県老人クラブ連合会 会長）
- ・山本 優 氏（吹上町内安全防犯徒歩パトロール隊 防犯アドバイザー）
- ・藤村 喜成 氏（NPO 法人三重県防犯設備協会 理事長）
- ・小川 和之 氏（株式会社ファミリーマート中日本エリア本部 西東海リージョン営業業務 G）
- ・杉本 幸孝 氏（三重県警察本部 生活安全部長）

【県議会議員（計9名）】

舟橋議員、藤根議員、中嶋議員、長田議員、館議員、青木議員、中森議員、
谷川議員、小林（貴虎）議員

5. 開催結果概要

～第1部～

（1）主催者あいさつ [14：00～14：05]

鈴木英敬知事から、「アクションプログラム・第2弾に基づき、皆さんと一緒にアクションの輪を広げ、地域の防犯力等を高めていきたい」旨のあいさつがありました。



主催者あいさつ

（2）来賓祝辞 [14：05～14：10]

上野達彦氏からビデオメッセージで「くらしの安全を守るために勇気を持ち、互いに交流し合うことによって、意識を高め、育てることが大切。三重弁で『ほっとするに』と言える文化を一緒につくりましょう」という旨の祝辞をいただきました。



上野会長のビデオメッセージ

(3) 大会宣言 [14:10~14:20]

「三重県安全・安心まちづくり地域リーダー養成講座」の修了者(22名)を紹介するとともに、同講座修了者から4名の県民・事業者の方が代表して「私たちが自らアクションを起こすとともに、さまざまな主体が力を一つにし、『オール三重』でアクションを広げていく」旨の大会宣言を読み上げました。



大会宣言

(4) アクションプログラム・第2弾について [14:20~14:40]

環境生活部くらし・交通安全課担当者からスクリーンを用いて、アクションプログラム・第2弾のポイントや込められたメッセージ、地域のさまざまなアクションの紹介を行いました。



県担当者の説明

< 休憩 > [14:40~15:50]

※会場内では、海蔵セフティネット協議会(四日市市)、NPO法人三重県防犯設備協会、一般財団法人三重県交通安全協会および県による防犯・交通安全にかかる啓発展示を行い、開会前や休憩時に多くの参加者に見学いただきました。



会場内展示ブース

～第2部～

(5) パネルディスカッション [14:50～16:00]

皇學館大学板井教授をコーディネーターとして、県民・事業者・若者それぞれの分野の第一線でご活躍する方をパネリストとしてお迎えし、『安全で安心な令和をめざして～オール三重でアクション～』と題するパネルディスカッションを実施し、日々の活動におけるさまざまなアイデアや今後の展望など参加者の活動のヒントとなり得るさまざまなコメントやメッセージをいただきました。



パネルディスカッション

ご登壇者

■コーディネーター：

○皇學館大学文学部 教授 板井 正斉 氏

■パネリスト：

○防犯パトロールボランティア熊野子ども見守り隊（熊野市）

隊長 徳本 勇 氏

○特定非営利活動法人ニコニコ共和国（四日市市）

理事長 高井 俊夫 氏

○株式会社ミッド八光（菰野町）

組織管理部マネージャー 後藤 恵実 氏

○県立鳥羽高等学校

「安全戦隊鳥羽レンジャー」（鳥羽市）

3年生 勢力 見海さん

3年生 前田 梨花さん



※「パネルディスカッションの概要」はP4～16参照

(6) 閉会 [16:00]

6. まとめ

アクションプログラム・第2弾のキックオフを飾る本大会には、地域でアクション（防犯・交通安全活動）を起こしていただいている県民・事業者の皆さんをはじめ、市町、警察、関係団体等さまざまな主体からのご参加をいただきました。

大会では、県民・事業者・若者の分野を代表するパネリストの方によるメッセージ、大会宣言等を通じて、『オール三重』で防犯・交通安全に取り組んでいくこと、それぞれのアクションを広げていくことを県民の皆さん等と一緒に確認しました。

これらを、今後も県民の皆さん等と共有しながら、さらなる安全で安心な三重の実現に繋げていくため、アクションプログラム・第2弾に基づき、県民や事業者、市町、警察等さまざまな主体との協創による取組の促進が図られるよう努めます。

【パネルディスカッションの概要】

◎…板井教授のご発言 ●…パネリストのご発言 ○…市町職員のご発言

◎板井教授

先ほどの説明の中で、県内の犯罪が減少傾向にあること、それは防犯ボランティアをはじめ、警察、関係者などの地道な活動の成果であること、ただ安全で安心かという点はまだ課題があることを私たちは共有しています。その点を踏まえて、アクションプログラム・第2弾が策定されたとのこと。第2弾のポイントはいくつもあるわけですが、今日は、多職種で多分野での連携というところにポイントを置かせていただきたいと思います。他の職種や分野の人と、どう連携していくのかというところに、現在の防犯活動を継続させていくヒントがありそうだと思うからです。

どのような分野、職種の方と連携できるかという視点をもって、ご登壇者のご活動から学ばせていただきたいと思います。

もし、ご参加の皆様の活動に活かせるものがあれば、是非持ち帰っていただきたいと思います。そして、良いなと思った活動などに対しては、団体への応援メッセージもお願いしたいと思います。

是非今日集まりの私達で高め合って、明日からの活動につなげていければと思います。そうした、ヒントのいっぱい詰まった登壇者の皆様をご紹介します。

熊野見守り隊の徳本隊長です。

特定非営利活動法人ニコニコ共和国の高井理事長です。

株式会社ミッド八光の後藤さんです

最後に鳥羽高等学校の勢力さんと前田さんです。

今日は大きく3つの話題を準備しています。まずは、各団体の活動紹介と当該団体が所属する自治体（市町）の職員の思いをお聞きしたいと思います。

そして、その後、各団体に2つの話題、「一番うれしかったこと」、「これからやってみたいこと」についてお聞きしたいと思います。

話題1「活動紹介」

◎板井教授

それでは、徳本隊長から活動紹介をお願いします。

●徳本隊長（熊野子ども見守り隊）

「地域のおじさん達の手で子ども達を守りたい」と思い、「できる人が、できる時に、できる事をやろう」という方針のもと立ち上がり、平成24年から活動しています。熊野市を拠点に、平成27年に御浜町に支部を発足し、現在の隊員は約80名です。紀宝町もエリアに入っております。中には若い30代の隊員も活躍しています。

主にどんな活動をしているかという、「子どもを犯罪や交通事故から守る」活動です。地域の宝である子ども達の安全安心を確保するには、防犯も交通安全もどちらも重要です。子ども達は、いつ、どこで、犯罪や交通事故に巻き込まれてしまうか分からないので、防犯や交通安全に取り組むうえで、市町や地域の境界は関係ありません。

私たちは、そういった考えから、御浜町も活動エリアに入れて、市町の境界を越えて、仲間たちと話し合いながら、広域的に子ども達の見守り活動を行っています。今はコロナの影響で自粛している部分がありますが、徒歩によるパトロールや青パトでの巡回、防犯・交通安全教室や学校訪問なども行っています。

私たちが常に心掛けていることは、子ども達と一緒に楽しみながら、絆を深め、見守ってるよということをアピールすることです。

例えば、親子と一緒に楽しめる蕎麦の種まきや工作、クリスマスにはサンタさんに変身するなど、子ども達が喜び、親子と一緒に楽しめるような様々なイベントを企画することもあります。

また、実は私、手先が器用で、物づくりが得意なので、それを活かし、木工だったり、竹馬を作ったり、子ども達と一緒に楽しんだりしています。

このスクリーンの写真のこの変わった車は実は、青パト（青色回転灯装備車両）、通称「パンダ号」です。よく、いろんな地域で見る青パトと違い、実はこれ、パンダのデザインを施しています。おそらく、三重県はもちろん全国でも、ここまで大胆なデザインの青パトはないと思っています。

どうして、パンダのデザインをしているかという、地域の子供達に「熊野子ども見守り隊」が認識され、多くの子ども達が私たちのことを親しんで、近づいて来てくれるようにと思ったからです。ただ、青色回転灯をつけた車では子ども達は覚えてくれません。この「パンダ号」にのって、パトロールをしていると、今では、小学生も、中学生も、中には高校生も手を振ってくれたり、私たちのことを「パンダ号のおじちゃん」と声をかけてくれたりします。それがうれしいし、私たちの大きなやりがいとなっています。

私たちは、仕事を持ちながらの隊員が多く、正直、結構大変ですが、皆、若い隊員も楽しみながら活動をしています。実は私たち、最初は「子ども達を見守りたい」との思いで活動をはじめましたが、最近では、何となく自分達の方が、「子ども達から見守られている」のじゃないかを感じるようになりました。本当に不思議な気持ちでいっぱいです。

◎板井教授

そんな地元でパンダ号のおじさんと呼ばれ親しまれている熊野子ども見守り隊の皆さんを、地元の熊野市はどのように思っているのでしょうか。

○中山さん（熊野市）

熊野子ども見守り隊の皆さんは、「できる人が、できる時に、できる事をやる」という方針のもとに独自に取り組まれているわけですが、市ではその素晴らしい活動

やパンダ号を住民の皆さんにもっと知ってもらうために、市の広報等を活用できないか今考えているところです。熊野子ども見守り隊の皆さんと、これからも相互に協力しながら安全安心なまちをつくっていきたいと思っています。

◎板井教授

市からは広報などを一生懸命やっついていこうかというお話もありましたが、パンダ号のアイデアは非常にユニークだと思います。もしよければ、他の市町にも広げていただけると「三重県の防犯はパンダ号だよ」というブランディングにもつながる気がします。三重県も応援してくれる気がします。

次は、活動主体が、特定非営利活動法人となります。ではニコニコ共和国の高井理事長をお願いします。

●高井理事長（ニコニコ共和国）

「ニコニコ共和国」は、平成18年に防犯活動団体として立ち上がりました。

平成17年から18年にかけて、地域内の高齢者に対する悪徳商法の被害などが相次いだことを受け、高齢者が詐欺などの被害に遭わず、安心して暮らせるようにと思ったことが結成のきっかけでした。

「ニコニコ共和国」は当初、任意の団体として活動を開始しましたが、後継者の確保を可能とし、将来的に組織が存続しやすく、責任のある立場で活動できるように、平成25年に「NPO法人化」を行い、現在の会員は60～70代を中心に約30名ほどです。主な活動は、防犯活動のほか、高齢者向けのサロン活動や学童保育等を運営しています。

このサロン活動と学童保育は、当時使われなくなった集会所を活用し、「ニコニコ茶屋」「ニコニコ学童」として開設しておりましたが、この4月に地区内の中央ほどに見つけた空き家へと移転しました。

また、9台の「青パト」を運行し、各所有者が毎日、好きな時間帯に巡回している状況です。他にも、お揃いのTシャツを着て走りながら見守る「ランニングパトロール」を行う会員もいます。会員だけではなく、会員以外のマラソン仲間にTシャツを配り、「一緒にランパトしよう」と誘いながら、少しずつランニングパトロールのメンバーを増やしていつているところです。

私たちの団体では、会員に、全ての活動への参加を呼びかけるのではなく、会員間で活動内容に応じて役割分担を行っています。例えば、子ども向けの事業、高齢者向け事業、防犯パトロール、その他青パトを運行する方、ランニングが好きな方といった感じで、役割分担しています。

役割分担をすることで、それぞれの、得意分野を活かすことができますし、「子ども向け事業だけなら手伝える」といった人もいるので、活動の輪が広がりやすい気がしています。

ちなみに、私たちニコニコ共和国のTシャツや看板のデザイン、サロンにおける制作の講師などを、地元の知恵や技術を持った方をお願いしています。これは、地域の方が地域の方に伝えていくことが大切だと考えているからです。

高齢者のサロン活動では、例えば「最近こういう特殊詐欺が流行っているので気を付けよう」とか、犯罪被害に遭わないために大切なことを繰り返し伝えるようにしています。

また、高齢者の参加者同士おしゃべりをしたり、一緒に楽しみながら絵馬や切り絵、カレンダーの制作をしたりします。その際は、高齢者が「また参加したい」と思えるように、必ず次回への宿題を残すようにしています。とにかく、私達は高齢者に孤独死なんてしてほしくないと思っています。認知症の予防だけではなく、「このまちで住み続けたい」と思えるようなきっかけ、「生きがい」の手助けができればと思って、活動を続けています。

◎板井教授

ニコニコ共和国さんの活動に対して、四日市市より一言申し上げます。

○後藤さん（四日市市）

写真にもありましたが、サロン、ランパト、学童など総合的に展開しており、またそれらの活動を役割分担しながら、上手く連携していることが素晴らしいと思っています。個人的な感想になりますが、高井理事長は長年、民生委員をされていて、地域の方に思いやりをもちながら、地域で問題が生じたら、的確にそれをとらえて、活動の中で改善しようと工夫される場所があると感じています。四日市市としては、担い手不足が課題となる中、このような人を探していくことも必要かと思っています。

◎板井教授

ニコニコ共和国の特徴は多展開。そこに、目的別の参加ができるよう、役割分担しながら、自由さや活動動機をうまく引き出していると思います。福祉との連携もうまくやっていると感じます。認知症予防、サロンの展開、これまでは福祉の領域だった活動を、NPO 母体の防犯ボランティアが多展開していること、これらに何かヒントがあるのではと思っています。

次は活動母体が株式会社であります、ミッド八光の後藤様にお話いただきます。

●後藤さん（ミッド八光）

「ミッド八光」は、三重県北勢地区(四日市、桑名、鈴鹿、亀山、三重郡)を対象エリアとしたダイレクトメール・チラシのポスティング等を主な業務としています。

ポスティングを行う約 400 名いる配布員、通称「ミッドレディ」が、担当エリア（約 500 世帯ごと）の世帯数や事業所数、高齢者世帯、子育て世帯等を細かく把握しながら、一軒一軒丁寧に配布しています。

私たちが防犯・地域安全活動をするようになったのは、「ミッド八光」の会長の横山が、日本ポスティング協同組合の会合を通じて、群馬県高崎市の、同じようなポスティングの会社で、腕章を巻きながら業務を行っている事例を知ったことがきっかけでした。これを、三重県で出来ないかと、横山が当時の四日市西警察署の署長さんに、話を持ち掛け、警察の方も、是非、協力してほしいとのことでしたので、平成 26 年に、「ミッド八光」と四日市西警察署で、「地域安全協定」を結び、それが

後押しにもなり、県内の四日市西署管内から配布員（ミッドレディ）がポスティングの際に腕章を巻くといった活動をはじめました。そして、その後、徐々に他のエリアにも広がっていきました。

ちなみに、この腕章には、地域安全と書かれており、全て(500人分)、会社の費用で負担し、作成しています。この腕章のデザインについては、中には、会社のロゴマーク（ミッド八光のキャラクター「はちぴー」）を入れた方が良いのじゃないかという意見もいただいています。

今でも、腕章を巻くのが恥ずかしいとか、嫌がる人もいますが、少しでも、この活動を理解してくれる従業員が増えれば良いなと思っています。

具体的な、私たちの地域安全活動は、ポスティング業務の一環で、「腕章」を巻きながら、地域の見守りや挨拶・声掛け活動のほか、特殊詐欺にかかる注意喚起などを行っています。

また、警察等から、不審者や特殊詐欺事案などの情報提供があった場合は、各地区のリーダーからミッドレディ、ミッドレディから各エリアの地域住民にポスティング業務の一環で情報を届けることもあります。

さらに、会社を挙げて地域安全活動に取り組むため、従業員の日頃の業務時の心構えや行動例等をまとめた、独自の「地域安全活動マニュアル」を作成しています。これは、警察庁のホームページなどを参考にして作成しました。

ミッド八光では、全地区のミッドレディなどが集まる「地域ミーティング」、地区ごとに開催する「エリアミーティング」などがあります。その中で、地域安全のテーマを設け、活動時の注意喚起や、ミッドレディ等も含めた意見交換を行ったりして、研修・支援体制を充実させ、会社ぐるみの活動につなげています。

私たちの会社におけるポスティングというメイン業務は「地域密着型」です。ミッドレディが各エリアの事情を熟知し、まちや人の少しの変化にも気づきやすいといった強みを生かし、業務の一環で日々犯罪抑止につなげています。

◎板井教授

それでは、ニコニコ共和国の活動に対して、菰野町よりコメントをお願いします。

○拜郷さん（菰野町）

ポスティングという地域に根差した業務の強みをいかした見守り活動をしていること、大変心強く思っています。また、独自のマニュアルをつくっておられますが、内容が非常に細かくて、個人的には、皆さんにもよく見て欲しいと思ったりしています。細かなところが、今の活動につながっているのかと思っています。なかなか、今は町としてお話する機会がないのが残念ですが、こうした意見交換の場などを通じて、地域の防犯力をより高めていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

◎板井教授

防犯ボランティアを持続させていくという点について、警察庁も長らく、CSR という言葉を使ってまいりました。言葉としてはよくわかるが、どうつながっていく

かに課題があると思っています。今はあまり話し合う機会がないとのことでしたので、この点、今日のキックオフ大会を機に、改善していても良いのかなと思えました。我々が知らないだけで、今日のミッド八光のような活動を他の企業でも実践しているかもしれません。本日は、企業の情報やCSR活動を知り得る行政の部署間でどう連携していくのが1つの課題のような気がしました。地域の私達が企業がどのような活動をされているのかを知ることにも課題があるような気がしました。ここはまだ繋ぎ甲斐のある所だと思いますので、是非また後藤さんの方からも経験上のアドバイスをいただければと思います。

では次に、高校生のお立場で、鳥羽高校の勢力さんと前田さん、よろしくお願ひします。

●勢力さん（鳥羽高校）

安全戦隊鳥羽レンジャーは、地域住民や観光客等が安心・安全に過ごせて、より魅力的なまちづくりを実現したいとの思いを持ち、生徒会を中心に、警察署の協力を得て、平成30年10月に防犯・交通安全ボランティアとして結成しました。現在のメンバーは3年生8名です。例年は、生徒会メンバーに加え、活動に賛同してくれる生徒が協力してくれていますが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、新規隊員を集められていない状況です。なかなか思うように活動できない中でも、鳥羽警察署と鳥羽地区交通安全協会の協力の下、昨年度この大会に参加した、「県立志摩高等学校（志摩ハイスクールパトロール～アフターG7～）」とコラボして交通安全啓発ののぼりを作成しました。今年度は、感染症防止対策をしっかりと行いながら、できることを見つけ、活動を広げていきたいと思っています。

名前の由来、キャラクターについては、鳥羽のまちを守るヒーローをイメージして、一人ひとりがやれることをしていきたいという思いで、鳥羽のまちを守るヒーローをイメージした独自のキャラクター「安全戦隊鳥羽レンジャー」を初代メンバーが考えました。

●前田さん（鳥羽高校）

頭に鳥の文字・背中に羽が生えている鳥羽をモチーフにしたデザインになっています。私たちが活動している時に着用しているベストも、5レンジャーをイメージした5色のカラーになっています。

活動の特徴としては、防犯と交通安全を主な活動とし、同校から駅周辺までの道のゴミ拾いをしながらの防犯パトロール、警察等と連携した広報・啓発やキャンペーン活動、交通安全県民運動への参加のほか、学校内での自転車盗難被害防止のための注意喚起などを行っています。

まだ発足して2年余りですが、生徒会が中心となり学校内外での防犯活動等を実施しつつ、今後は、さらに学校内でのネットワークを広げるとともに、同じく学生ボランティアとして活躍する「志摩ハイスクールパトロール～アフターG7～」をはじめ、さまざまな団体のアイデア等を吸収しながら、新鮮な気持ちで活動を徐々に広げていこうと考えています。

◎板井先生

では、これに対して鳥羽市さん、コメントをお願いします。

○澤田さん（鳥羽市）

市の担当として、鳥羽市内に「安全戦隊鳥羽レンジャー」がいてくれるということは、とてもありがたく、また大変心強い存在だと思っています。

高校生のボランティア防犯活動は、私達行政職員や警察が行うよりも、大きな効果があると思います。自分に置き換えて考えてみても、警察官や行政職員がビラを配るより、若い皆さんに配っていただいたほうが、ビラの受け取りが上手くいく気がします。学生は、卒業・入学など、毎年、人の循環があります。高校生が防犯活動に参加し、継続していくということは、毎年毎年、防犯・交通安全ボランティアに携わった人材が増えていくということになります。

近年多くの自治体では、防犯・交通安全ボランティアメンバーの固定化や高齢化などによる人材確保、さらには活動の継続自体が困難になるなどの課題を抱えており、鳥羽市においても同様のことが言えると思います。「安全戦隊鳥羽レンジャー」の活動は、それらの課題を解消できる可能性を持った、とても素晴らしい活動であると考えています。

安全戦隊鳥羽レンジャーの活動に対して、市の防犯担当としては、活動するために必要なもの、活動を続けていくために必要なことは、応援させていただきたいと考えています。

まだ、市と一緒にの防犯活動実績は多くありませんが、今後、さらに一緒に行う取組を増やしていければと考えていますので、安全戦隊鳥羽レンジャーの力を貸してください。地域住民や観光客等が安心・安全に過ごせて、より魅力的なまちづくりを実現したいという思いは、市も同じです。警察署だけでなく、鳥羽市もどんどん巻き込んでください。高校生ならではの感性で、警察や行政を巻き込んだ取組を期待しています。

◎板井教授

警察庁では、近年、大学生の活動に力を入れていますが、じゃあ、全国的にその活動が広がっているかというところ、そこまではない気がします。大学はそこまで多くありません。高校あるいは、中学、小学校の皆さんと一緒にどんな活動が出来るかというところに、今回の取組をヒントにブレークダウンして、考えていくことも一つかと思いました。高校生が何でここまでやってくれるようになったのかという点もお聞きしたいので、次の質問に含めながら進めたいと思います。

話題2「今までで一番うれしかったこと」

◎板井教授

先ほどまでで、各団体とも活動主体や状況がさまざまであることが分かりました。

話題2では、各団体から、これまでで一番うれしかったことをお聞きしたいと思います。

では、熊野子ども見守り隊からお願いします。

●徳本隊長（熊野子ども見守り隊）

当初、青パトに普通のマグネット（防犯パトロール実施中）を1枚貼って巡回していても、あまり相手にしてもらえず、思い切って、子ども達に親しまれるようにと、青パトをパンダのデザインにしました。パンダ号でパトロールするようになって、最初は、「何あれ」といった感じで、手は振られませんでした。だんだんと手を振ってくれるようになりました。

パンダ号の活動を始めた当時、小学生だった子ども達が、今は高校生になりました。高校生になった今も、パンダ号を見て手を振ってくれたりするのでうれしいです。

熊野で「おじいちゃんもおばあちゃんも、パンダ号知ってるよ」とか、「何か困ったことがあればパンダ号のおじちゃんが助けてくれるよ」とか言われたくて、日頃からパンダ号には、浮袋や薬箱など、たくさんの物を積んでいます。学校に行って、「パンダ号にこんなものを積んでいるよ」とか言うと、子ども達は、そのことを親や、おじいちゃんおばあちゃんに言ってくれたりします。お祭りでもその話題になったりすることもあります。

やっぱり、一番うれしかったことは、パンダ号が熊野市や御浜町で、名前を認識していただいたこと、子ども達が手を振ってくれたり、あいさつしてくれたりするようになったことです。これを、三重県中に広げていければ素晴らしいことだと思います。

◎板井教授

多くの示唆があったと思います。子ども達との交流のツールとしてパンダ号がうまくヒットして、連携していく中で、地元の高齢者にもつながるようになったというお話でした。

全国の防犯ボランティアの方とお話をしていて話題になるキーワードは、防犯教育です。防犯教育は、まさに我々が積み上げていけるものではないかと思っています。徳本隊長がパンダ号を通じて取り組まれていることは、子ども達にとっての防犯教育だと思いました。

では、次にニコニコ共和国の高井理事長の一番うれしかったことを教えてください。

●高井理事長

徳本隊長と一緒に、子ども達が手を振ってくれたり、声をかけてくれることが本当のやりがいです。

2年前、近くでコンビニ強盗が発生し、学校から保護者に下校時迎えに来るように連絡する中で、私の方にも、校長（小学校）から自分の携帯に「見守りをお願いしたい」と連絡が入りました。こういう連絡が校長から入るといことは信頼してもらえているのかなと思えてうれしかったです。また、その後、地域の民生委員に、見守りの協力をお願いしたら、20数名が、自宅前などで見守りに協力をしてくれた

こともうれしかったです。

実は今日の朝も、警察から電話で「〇〇町で男性が倒れていて保護しているけど身元が分からない、高井さん知らないか」と連絡がありました。最終的に、警察から無事分かりましたとの連絡がありましたが、こういうふうに、警察から連絡があるというのもうれしく思っています。

◎板井教授

警察との連携はよく聞きますが、校長先生から直接連絡があるということは、どこかで校長先生がニコニコ共和国の活動を知り、つながったことに他ならないということだと思えます。日々の地道な多展開での活動が学校や警察の信頼を高めていることに繋がっているのかと思いました。ここにも、ニコニコ共和国の多展開での成果があるような気がしました。

では次にミッド八光のうれしかったことをよろしくお願ひします。

●後藤さん（ミッド八光）

この緑の腕章をつけるようになって、以前より子ども達から声をかけていただくことが増えたと配布員から聞いています。それまでは、子ども達から挨拶や、「何してるの」「お疲れ様」などと、子ども達の方から声をかけてくれることはありませんでしたが、緑の腕章を巻くようになってから、そのように嬉しい効果があったとの報告を聞き、私としてはうれしかったです。

配布員が地域の人から不審者に思われないことが、会社としては心配でしたが、緑の腕章を巻くようになってから、門から玄関まで距離がある自宅でも、腕章を巻いていることが心強いという意見がありました。目に見えない効果が多いですが、そういう話を配布員から聞くと良かったなと思っています。

◎板井教授

こういう活動をすることで、声をかけられるようになり、それがやりがいになり、地域の安全力が高まり、企業の魅力が高まるといった相乗効果を感じられる活動だと感じました。

それでは、高校生のお二人が一番うれしかったことはどんなことだったのでしょうか。

●前田さん（鳥羽高校）

近くのスーパーで振り込め詐欺のチラシ配りをしているときに、高齢者の方が立ち止まり、チラシをとってくれて、世間話をしてくれて、地域の方と直接お話できたことが一番うれしかったです。

●勢力さん（鳥羽高校）

私は近くのスーパーで車上荒らしの呼びかけをしていた時、子どもから高齢者まで、私たちの活動に対して「ありがとう」と言ってくれたことがうれしかったです。

◎板井教授

皆さん、防犯ボランティアとしての目的が果たされた時の喜びというより、防犯ボランティアとしての活動を行っている過程での交流などに喜びを感じておられる

ような印象を受けました。地域の方から評価されるということが動機になっているという点は、私達も認識したいと思いますし、これから、皆さんが活動が続けていくうえで、ご登壇いただいた皆さんも、交流や触れ合いの部分に、やりがいを感じているという点をサポートする我々も理解していきたいです。そこが高まれば、皆さんの活動も自ずと広がり、活動を展開する可能性を秘めていると思います。お集まりの皆さんも、企業や高校に声をかけてみようかと思われた方もいるかもしれませんが、結果ではなく、その過程に多くの方がやりがいを感じているということを教えられた気がします。

話題3 「これからやってみたいこと」

◎板井教授

では、最後の話題、これからやってみたいこと、皆さんの未来についてお聞きしたいと思います。

スクリーンにはご登壇の皆さんに予め書いていただいたスケッチブックを映しています。

では、徳本隊長からお願いします。

●徳本隊長（熊野子ども見守り隊）

「パンダ号を広げたい」です。パンダ号というものを熊野から発信し、隣町、尾鷲、大台、紀宝、さらに四日市、鈴鹿などにも、三重県のどこにいても、パンダ号があるように、広げていきたいと思います。

◎板井教授

お役目を終えたパンダ号を地域でモニュメントのようにしていると聞きました。

●徳本隊長（熊野子ども見守り隊）

はい。今までがんばってくれたパンダ号をそのまま廃車にするのはもったいないと思い、いろんな方の意見を聞いたうえで、一番スピードが出やすく危ない道路脇に、地主さんの理解を得て、廃車となったパンダ号をモニュメントのように置かせていただいています。夜だけでも青色回転灯をまわして欲しいという要望もあったり、地域の人に喜ばれています。

これは、学校の先生や警察署長など、交通安全協会など、皆さん協力してくれたことで、進めることが出来ました。

◎板井教授

廃車となった青パトの活用事例としても興味深いと感じました。

次に、ニコニコ共和国高井理事長の「今後やってみたいこと」はいかがでしょうか。

●高井理事長（ニコニコ共和国）

「ランパトでクリーン作戦」です。実は6月から、宇治市の活動を参考にして、たばこの吸い殻、犬のふん、ゴミなどを見つけた時に、黄色いチョークで丸をして、

日付けを入れるといった活動を始めました。スマホなどで写真をとるようにもお願いしています。この活動によって実績もありました。前の活動拠点近くのコンビニで空き缶、中身が入ったペットボトルなどのゴミなどが多かったので、全てチョークで丸をしたら、ゴミが減りました。他の地域に行ったのかは分かりませんが、実際にゴミが減ったという事実はありましたので、皆さんに、チョークで丸をつける活動と呼びかけています。チョークは手とかポケットが汚れることがやっかひでしたが、チョークホルダー（1本450～460円）というものを見つけました。これだと、胸のポケットに入れて散歩して使うときにキャップを外せばどこも汚れません。これで人にも頼みやすくなると思います、40本ほど購入しました。このチョークホルダーを持つ人は絶対にゴミを捨てたりしないと思います。今後、できる限り、「チョークを持ってよ」と声掛けをしていこうと思っています。ただ、チョークホルダーは結構高価なので、市の方でも、こういう活動を広げることをサポートしていただければと思います。まちが綺麗になれば、住みやすくなると思います。一人でも多く、チョーク片手に散歩する人が増えればと思っています。

◎板井教授

全国でもランパトの活動はありますが、さらにワンアイデアを加えられた取組だと思っています。壮大な社会実験をしていただいているようで、また今後の結果を教えてくださいと思います。

では次にミッド八光の「今後やってみたいこと」についてお教えてください。

●後藤さん（ミッド八光）

「会社名を腕章に」です。今は、腕章に地域安全としか書かれていません。地域の情報誌やチラシをお届けしながら、防犯活動をしていることが地域に浸透していないところもあり、知名度もまだ低いです。会社名を腕章に入れて、北勢地域で配布しながら、配布業者といえば、ミッド八光といったような、地元で愛されるような会社になれば、腕章をつけることに抵抗のある配布員さんからの誓いも得られやすくなると思いますし、ミッド八光に配布をお願いしたいという人も増えるような気がします。腕章に会社名と当社のオリジナルマスコット「ハチピー」も是非一緒に入れて、活動していければと思っています。

◎板井教授

最初から社員に強制するのではなく、皆さんがつけたいと思えるように工夫するというのが、非常に学ぶところだと思いました。「ミッド八光といえばポストイングで防犯だね」といった評価が社員にとっては、「私たちのやっていることが認められているんだ」というアイデンティティにもなっていくように感じました。お互いが相乗的に、ミッド八光の名前の入った腕章をまいて防犯してくれているというところに向かっていけるのかなと思いました。

では最後に鳥羽高校のお二人の「今後やってみたいこと」について教えてください。

●勢力さん（鳥羽高校）

まず、こちらをご覧ください。

～ とぼっこクラブの動画 ～

私たちの今後やってみたいことは「とぼっこクラブとのコラボ」です。

私達も加入している、観光の魅力発信などに取り組む「とぼっこクラブ」と連携して、観光情報の発信とセットで、「鳥羽は安全安心だ」というPRもしていきたいと思えます。

●前田さん（鳥羽高校）

警察から頼まれての受け身の啓発やイベントだけではなく「とぼっこクラブ」と連携することで、鳥羽高校（鳥羽レンジャー）として、主体的に、防犯交通安全活動に取り組んでいきたいと思えます。

◎板井教授

4団体の皆さんそれぞれに今後のことをお聞きしました。皆様のほうでも、もし重なる部分があれば、参考にさせていただきたいと思えますし、もしよければご一緒に活動されても良いかと思えます。

最後に簡単に今日の話をもとめさせていただきます。本日は、これまで、長らく防犯に携わってくださっている方が多くお集まりかと思えますが、あえて挑戦的なまとめをさせていただきますと、これからの安全安心は、もう防犯だけで考えてはいけないのかもしれないということです。冒頭、多分野で多職種との連携について触れましたが、これは我々の組織が維持されることだけではなくて、我々が目的としていることが維持されていくかということにおいても大切なキーワードになっていきそうだということです。

そのためには、例えば掛け算がいくつかありました。×福祉、×企業、×教育など、長らくやってきたことではあるがいくつか新しいヒントをいただきました。最後には×観光という掛け算も教えていただきました。この掛け算によって、関わってくれる団体、個人が増える事にもつながります。皆さんの団体の人が増えないことは課題かもしれませんが、手伝ってくれる仲間が他の団体或いは分野でいれば、皆さんの目的を持続するためのパートナーとして課題の解決にもつながるのではとも思えます。まさに、この安全安心は防犯だけではなくて、これからはどこと掛け算をしていくのかということがこれからの課題という時に、我々はどういう姿勢で臨めば良いのかということですが、これを挑戦的な言葉で言わせていただきますと、「防犯とはいわない防犯」が一つヒントになるのかもしれませんが。

防犯を防犯とだけで考えてしまうと、これからのやり方が大事になってはきますが、おじいちゃんおばあちゃんのようにサロンに集まってくる方達に対して、支援しつつ、お茶をだしつつ、「最近どう？」と声掛けをすることは、福祉といえば福祉ですが、おじいちゃんたちの暮らしぶりを知るチャンスにもなります。

兵庫県で聞いた話ですが、オレオレ詐欺の電話で一番ひっかかりやすい曜日は水曜日だそうです。

何故かという、オレオレ詐欺はお仕事の時間が限られていて、平日の朝から午後3時までには終わらなければならないからです。月曜日は最初、口がまわらず、上

手くひっかからない、火曜日に少し慣れてきて、水曜日くらいになると残念なことにひっかかりやすくなるそうです。とすると、1か月に1回集まるようなサロンを、例えば、水曜日の午前中に行うことは防犯的な効果があるのかもしれませんが。

サロンに集まっていれば、オレオレ詐欺はほとんど固定電話ですので、家に対象者がいなくなり、オレオレ詐欺にひっかかることもなくなるわけです。

このように、これまで防犯だけで考えていた取組を×福祉、×観光ということで考えを広げていくところも一つだと思いました。

まさに最後の×観光の部分は三重県らしい防犯としての可能性を含んでいると思います。今観光の判断基準は風光明媚だけでなく、安全で安心な場所というものも求められています。新型コロナウイルスの関係で、さらに安全で安心な場所あることが観光地のブランディングには大事になってくるということです。この安全安心の部分については、これまでの皆さんの活動のノウハウも活かせると思っています。

是非、そのような形で、掛け算を増やししながら、これからのアクションプログラム・第2弾をオール三重で、一緒に進めていくということをここで、皆さんともう一度確認させていただきました。

そのようなヒントが得られたのもご登壇いただいたパネリストの皆さんのおかげです。

パネリストの皆さんに、もう一度拍手をお願いします。

(拍手)

ありがとうございました。

以上